

議会質問に見る

森田が目指す未来図

平成23年6月定例議会にて

質問 地方から政治を活性化しなければ！

●合併だけに頼らず、住民自治に重きを置いた地方自治を推し進めることが大切と考えるがいかがか？

上田知事答弁要旨

平成の大合併で、ある程度行財政基盤が強化されたが、今後は自治機能の強化に力を注ぐべき。又環境、子育て等特定分野に精通した方々を行政に参加して頂く等努めたい。

その1

地域地域が切磋琢磨し、新しい日本の形を創る！

「欧米諸国に追い付き追い越せ」の時代が終わった今、法律や補助金で地方の足並みを揃え、画一の制度を敷く必然性は低くなっている。思い切って、市町村、都道府県に権限、財源を移し、各地域が創意工夫をし、切磋琢磨できる環境を創ろう！



平成24年6月定例議会にて

質問 3歳までは親が仕事を休める社会を

●子どもが小さいうちは、父親・母親両方が子育てに関われる社会をどのように実現させていくのか。制度の定着と意義の周知という面から知事の考えを伺う。

上田知事答弁要旨

女性の働く環境整備に加え、改正育児・介護休業法の周知を徹底し、男女ともに子育てしやすい環境づくりに努めたい。

その2

教育は家庭から

教育の基本は家庭。まず小さい子どもに関わる環境を創ろう！3歳までは育児休暇がとれる制度を男女ともに実施、まずは親子の信頼関係を築く。家庭という基礎を固め、地域、学校一体となって、礼儀、価値観、基礎学力を学べる環境を創ろう！自分自身、家族、隣人を愛せる人が集まれば、良い地域になり、その集合が良い国を創る。



平成24年6月定例議会にて

質問 鉄道輸送を活用しよう！

●新潟港に鉄道が乗り入れられるよう後押しをし、トラックと鉄道の両方を使ってロシアや北東アジアへの玄関口となる、という売り込みができるような環境整備をはかるべきと考えるが、産業労働部長の考えを伺う。

産業労働部長答弁要旨

県内の各貨物ターミナル駅が新潟港に直結することは、本県の企業立地環境の向上にも大きく寄与するものである。県としては、新潟港への鉄道乗り入れが早期に実現できるよう、三県知事会議などを通じて関係機関に積極的に働きかけていく。

その3

働く場所を創ろう！

17号バイパスや圏央道の早期完成によって、地域に働ける場所を創ろう！首都圏にあり、主要な道路に囲まれた私達の地域は、大きな潜在力を持っている。企業を誘致し、若者が働ける場所を創ろう！地域に働ける場所がなければ、人は住まない。税金も納める人がいなくなる。働く人を増やし、税金を納めていただくことで、安心して暮らせる世の中が実現する。



森田としかずが語る!!

今の政治の課題をいかに解決していくべきか？



Q1 埼玉県北と県南の格差 埼玉から日本を考える

A1 私は熊谷に生まれ育ちました。学生時代は海外へ一人旅したり、自転車にテントを積んで国内を旅行したりしました。今は小学生の娘が3人いて、にぎやかです。

現状の課題で言うと、未完成の圏央道と、17号バイパスの早期全線開通を目指してやっていくこと。一般的な商工業の拠点と文化の拠点をうまく組み合わせることで、人が集まる地区、働く場所がある地区を作る。それで県南と差別化を図れば、流れが良くなってくると思います。

Q2 地域の発展を遂げるために TPP の影響とは

A2 今の日本がTPPに参加することには反対です。国としての戦略が描けていません。まず、国の経済をいかに発展させていくか、工業、サービス、農業といった各分野での働き方を組み立てる必要があります。その上で、海外諸国との連携を考えるべきです。農業が一番守られていただけに弱い構造になっている。趣味的にやっている方と、半ば工業的に大規模にやっている方と場合分けをして支援をしていくことが大事です。単にTPPに反対すれば農業が守られるという問題ではありません。

Q3 エネルギー問題はどこへ 向かうか

地域単位で考えると、どのレベルの生産性を目指していくか、絵を書いておいた方がいいと思います。市町村単位とか、単位農協レベルで細かく見つつ、農業の効率化や集約化を図っていくべきです。

A3 原発が危険であるということ が改めて認識された今、原発の 将来的な廃止も含めて、私たちは 新たなエネルギー政策を考える必要 があります。今の形で、そのまま発電の方法 だけを変えることには無理があります。

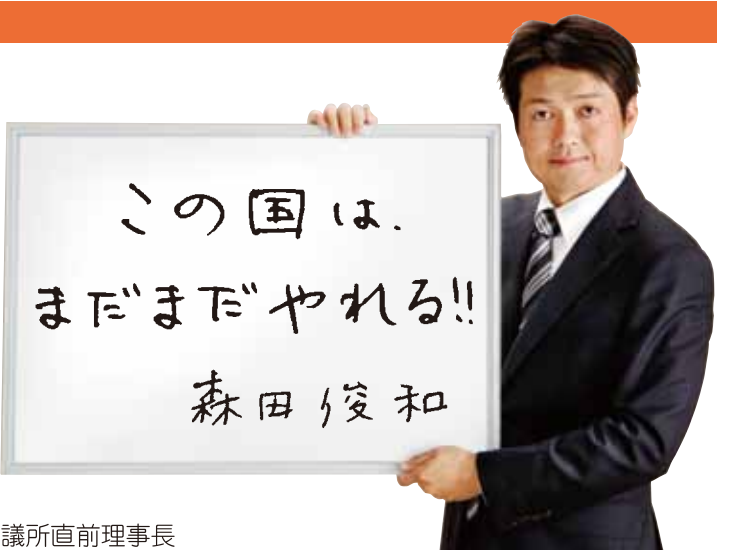
まず、エネルギーを電気だけで考えないこと。給湯や空調は、電気である必要はありません。地域や事業所、家庭へのエネルギー供給を今より小さい単位で考えなければなりません。ゴミ焼却場や家畜糞尿のバイオマス発電施設は、電気だけでなく、地域で熱源としても活用できます。様々なエネルギー供給源を考慮した上で、電気の問題も考える必要があります。地域ごとに電力の需給は違うのですから、これからは市で作った電力会社なんていうのもありえますよね。事情を把握して地域の力を繋げ、自立していくこと。地方分権が必要です。

Q4 地域が元気になるれば 若者が夢を持てる

A4 若者が夢を持てないといいますが、まず大人が夢を持っていない。若者にだけバラ色の夢を描けというのは無理です。大人たちが自分の足で前を向き、発展的戦略を描いていかないと。

プロフィール

昭和49年9月 埼玉県熊谷市久保島に生まれる
 広瀬保育園卒園・熊谷市立玉井小学校・中学校卒業
 平成 5年3月 埼玉県立熊谷高等学校卒業
 平成 9年3月 早稲田大学政治経済学部卒業
 平成11年3月 早稲田大学大学院修士課程(政治学)修了
 平成11年9月 カナダ・マギール大学留学(1年間)
 平成15年4月 埼玉県議会議員選挙初挑戦(23票差で次点)
 平成17年3月 早稲田大学大学院博士課程(政治学)修了
 平成17年6月 訪問介護ステーション開設
 平成19年4月 埼玉県議会議員選挙初当選(23,010票)
 平成20年6月 介護施設上川原んち開設
 平成23年4月 埼玉県議会議員選挙二期目当選
 現 在 介護施設上川原んち代表、(社)熊谷青年会議所直前理事長



森田としかず
 tel.048-530-6001
 @moritter 「森田俊和 ツイッター」と検索!!
 または、携帯電話で「QRコード」をスキャン!!

森田としかず事務所
 (通称:モリモリオフィス)
 〒360-0831
 熊谷市久保島1003-2
 fax.048-530-6002
 平日 9:00~17:00(土・日・祝日 はお休み)

E-mail mmo@morita-toshikazu.com
 www.morita-toshikazu.com

ホームページにて近況をお知らせしております。
 ご意見・ご提言等たくさんの方のアクセスをお待ちしております。